

人口ビジョン

<育てる力>集中創生戦略（2015～2019年度の5年間）

中長期展望（2060年を視野）

基本目標（数値目標、2019年）

主な重要業績評価指標（KPI※）

具体的な施策

I 山武市の人口の状況分析

- 2060年の総人口は23,402人。
（2010年56,089人、41.7%に減少）
- 高齢化率は、2010年25.4%から
2060年48.5%まで上昇
- 2014年の合計特殊出生率は、
国1.42に対して1.10（県は1.32）

II 人口の将来展望

◆目指すべき将来の方向

①人口減少問題に取り組む基本的視点

- 若者を中心に住むことに誇りを持てる
まちづくり
- 若い世代の希望がかなう生活環境基盤等
の整備
- 健康で暮らせる地域コミュニティの形成

②目指すべき将来の方向性

- 他地域への就職や都市部への進学によっ
て転出せざるを得ない若い世代が、再び
生まれ育った山武市に誇りを持って戻れ
ることが重要。
- 転入で新たに市民になる方も、山武市を
愛して、地域に貢献したいという意識を
持てる必要がある。

③山武市の将来人口（2060年の人口を試算）

○出生率

- 2020年に1.60、2030年に1.80、
2040年に2.07（国準拠）と仮定

○社会移動

- 上記出生率で現状推移：29,129人
- 加えて、2020年から2025年の間に、
20代の社会移動が改善
（社会移動が半減）：30,919人

1 地域の魅力と誇りの創生 【シティプライド】

- ◆年間観光客入込数
2,076千人(H26)→2,200千人(H31)
- ◆転入転出者数
△391人(H26)→△150人(H31)

オリンピック・パラリンピック事業実施数（累計）
1件(H26)→18件(H31)

市民活動や地域活動をするための活動の場
（施設）の新規整備数（累計）
—施設(H26)→2施設(H31)

NPO法人、市民活動・ボランティア団体数
168団体(H26)→170団体(H31)

基幹バスの年間利用者数
41,369人(H26)→41,000人(H31)

乗合タクシーの年間利用者数
51,036人(H26)→51,000人(H31)

1-1 オリンピック・パラリンピックを契機とした 交流プログラムやスポーツツーリズムの振興等による 地域の魅力創造

- ①オリンピック・パラリンピック事業の実施
- ②国際交流組織の設立
- ③ダンス事業を基軸としたスポーツによる賑わい創出

1-2 「小さな拠点」を形成する地域コミュニティの 担い手育成

- ①「小さな拠点」の形成を目指した市民活動施設の整備
- ②市民活動の活性化によるまちづくり

2 グローバル人材を育てる力 の創生【教育】

- ◆中学校卒業時に英語検定3級以上を
取得している生徒の割合
7.0% (H27)→50.0% (H31)

外国語コミュニケーション講座への参加者数（累計）
—人(H26)→250人(H31)

海外派遣事業応募者数（累計）
26人(H26)→220人(H31)

2-1 幼児期から一貫した英語教育によるグローバル 人材の育成

- ①青少年の外国語学習機会の確保
- ②市内高校を地域で支える体制づくり

2-2 スリランカ等との国際交流機会の増大による グローバル人材の育成

- ①スリランカ等との交流
- ②高校への海外留学生受入支援
- ③国際交流組織の設立（再掲）

3 出産・子育て支援及び高齢者福祉の 担い手を育てる力の創生【医療・福祉】

- ◆合計特殊出生率
1.10 (H26)→1.60 (H31)
- ◆65歳から74歳までの高齢者で介護認定
を受けずに生活している高齢者の割合
95.9% (H26)→96.9% (H31)

松尾高校との連携等事業数
1件(H26)→3件(H31)

各種子育て相談延べ件数
842件(H26)→1,000件(H31)

市内産科医師数
1名(H26)→4名(H31)

3-1 松尾高校SGHと連携した世界的な高齢者福祉 モデル地区とするための人材育成の支援

- ①松尾高校SGHへの支援
- ②城西国際大学と連携した市内高校のキャリア教育支援
- ③市内事業者へのEPAによる看護・介護人材の受入支援

3-2 安心して子育てできる環境づくりと産科医を はじめとする地域医療を支える人材の育成・確保

- ①安心して子育てできる環境づくり
- ②地域で安心して産み育てられる環境の充実

4 地域経済を育てる力の創生 【産業、成田空港経済圏】

- ◆市内事業所従業者数
15,346人(H26)→15,500人(H31)
- ◆従業員一人当たりの製造品出荷額等
（4人以上事業所）
3,552万円(H26)→3,560万円(H31)

エコノミックガーデニングの研究テーマ数
—件(H26)→8件(H31)

成田空港圏での共同事業数
3件(H26)→7件(H31)

年間観光客入込数（再掲）
2,076千人(H26)→2,200千人(H31)

4-1 エコノミックガーデニングによる市内中小 企業・小規模事業者の育成

- ①エコノミックガーデニングの推進
- ②農商工連携を基軸とした産業の振興

4-2 地域間連携を通じた成田空港経済圏の形成

- ①成田空港を核とした地域の繁栄
- ②インバウンド需要を取り込んだ着地型観光の推進
- ③成田空港等に必要の人材の育成